

すまいるたん



汐入

発行元
東京新聞
南千住東口専売所
TEL5850-3699
発行責任者
鬼塚 佳代子
TEL090-2657-0300

真、行、草、もてなしの和心 荻原宗周

「難しい。
だからこそ、勉強しなくては」

荒川区華道茶道文化会茶道部長をさ
れている荻原さん（大正14年生）は、

お花は龍生派家元1級、荻原錦紅として
お茶は裏千家、荻原宗周の名前で半世紀
ご自宅で教えておられます。

「龍生派家元から頂いた名前錦紅は、桜
島の浮かぶ雄大な錦紅湾から付けて頂い
たのではないかと思ひ、名に恥じぬよう
に一層勉強していこうと思つたんですよ」

荻原さんは、教室の時間以外には展覧
会の出品や会合で多忙な中、空いている
時間に本を読み、セミナーや師を求めて
中野や鎌倉まで出かけておられます。

茶の湯のお稽古はお点前（茶を点てる）

・お客様としてお茶を頂く・水屋（お点
前の準備・片付け）の3つに大別できま
す。水屋のお客様に見えない影の仕事が
できるまでには3年以上かかります。お
もてなしや相手を思う心、和の人間関係
育成、また人間としての修養が茶道の点
前、所作にはたくさん込められています
その中の一つ一つの所作・道具の意味合
いを理解する為に生徒さんにはお稽古の

時だけでなく、絶えず勉強をしてほしい
と思つておられます。

茶のスタイルを「真行草」と言い換え
ることがあります。お辞儀も、最敬礼の
真、臨席の方への行、親しい友人への草
と区別され、お辞儀が揃うのはお稽古が
出来るようになったと認められてくるこ
ろです。

「茶の湯とはどのようなものですか」

の問いに利休の答えた利休百首の中には、
茶は服（ふく）のよきように・炭（す
み）は湯の沸（わ）くように・夏は涼（す
ず）しく冬は暖（あたた）かに・花は野
にあるように・刻限は早めに・降（ふ）
らずとも雨の用意・相客（あいきやく）
に心せよ。

のことばがあります。四百年続く裏千家
の利休の考えは、江戸しぐさと通じる人
を大切にもてなす心があります。

「お茶の先生は、火事の時は真つ先に灰
を持つて出るつて言われる位、灰は大事」

灰でその先生の腕前がわかると言われ
ますが、荻原さんは真夏の1ヶ月、外に
出して毎日水を入れ、アク抜きをして灰
の手入れをされています。灰一つまでに
細かなこだわりと気配りされているのは、
お客様には気がつかれないことですが、
その心使いはお茶のおもてなしの格式を
あげるように思います。前日までにご招

待のお話を持つていき、お客様のために、

茶花を用意し、炭を起こし、1日がかかり
での接待は、相手に対する心がないとで
きません。古（こ）ぶくさを折つて、金品の入つ
た祝い袋をはさみ、差し出すしぐさは、
あなたのために用意した、私の心からの
贈り物という気持ちで伝わります。

「扇子は、先生と自分の間に置くことで
対等関係でなく、先生と弟子の関係にな
る※結界の役目をするんですよ」

荻原さんからお話を聞き、目からうろ
こが取れました。小学校の生徒さんに年
1回お茶の指導もされている荻原さん、
多くの方に荻原さんのお話を聞いていた
だきたいですね。

無作法なのでと尻込みする私に

「恥のかきどころだから、気にせず、楽
しんでお茶を飲みにいらいっしやい」
尊敬できる方がまた一人増えました。

月3回のお茶・お花のお稽古にいらつ
しやいませんか。簡略さ
れない所作の中に粹を感じ
じ、忘れ去られた優雅な
空間と時間の流れに居場
所がきつと見つけられます。

※結界 清浄な領域と普
通の領域との区切り



★お茶・裏千家 荻原宗周
★お花龍生派 荻原錦紅
南千住1-36-7
電話3801-8676